

平成 28 年度第 3 回学校協議会実施報告

実施日時：平成 29 年 2 月 21 日（火）午後 5 時～7 時

実施場所：本校会議室

学校協議会委員出席者（五十音順）

塩見委員、田中委員、田峰委員、春山委員、人見委員、安田委員

事務局出席者

松浦（校長）、尚山（教頭）、富澤（事務長）、藤井（首席）、川村（首席）、
山崎（生徒会主担）

．次第

(1) 校長挨拶

(2)本校の現状報告（校長、藤井）

- ・本年度学校教育自己診断の結果について
- ・来年度の学校経営について
- ・再編整備計画について

(3)質疑・応答

内容

< 挨拶 >

校長より

< 現状報告 1 >

本年度学校教育自己診断の結果について説明(藤井)

- ・保護者の提出率が大幅アップ、過去 3 年間で最高となった
- ・今年度について、保護者・生徒・教員の全カテゴリーで前年比プラスとなった
- ・「わかる授業」をめざしたことにより、授業充実の項目がプラスを維持している

< 現状報告 2 >

来年度の学校経営について(校長)

- ・学校協議会の意見を取り入れ、自習室の設置・授業改善シートの導入ができた
- ・遅刻数が激減したが、部活動参加率が微減となった
- ・次年度、コース制への改編に向けて機構改革を行う
- ・次年度はオーストラリアへの語学研修を実施する

< 現状報告 3 >

再編整備計画について(校長)

- ・教育監レクにおいては好意的にとらえてもらえた。
- ・コースの設置について説明し、理解を求めた。
- ・コース以外の一般の普通科について、総合系・理科系・看護医療系(仮)を考えている

意見交換

委員：入試においては、コース別に行われるのか？

事務局：普通科一本で取って、1年の秋に希望を聞いて振り分ける

委員：希望通りにいけるとよいが...

事務局：コースによってはキャパの問題があり、調整しないといけない。成績等で。

委員：「わかる授業」が定着してきているということだが、具体的には？

事務局：ICTの活用とアクティブラーニングが考えられる

委員：魅力ある授業はシラバスが大事。どういう順で、どこにアクティブを入れるか。また、到達目標、ルーブリックを出していかなければならない。例えば、美術においては模様・機能・丁寧さ・工夫、それぞれの観点で細かく段階をつくる。さまざまな評価の引き出しを持つべき。創造性のみではない。

委員：つばさの評価が上がっていることを中学校等へ発信してほしい。来年からのコース制については、高一での選択が気になる。選択する力がついているのか。自分の将来像がまだ見えていない。オリエンテーションをきっちりやらねばならない。先生が得意なものを生徒にアピールしてほしい。安易にではなく本当に生徒が選べるように。また、アクティブラーニングの評価は難しい。自分で目標を決めて、意欲・関心、技能とは別に目標があると頑張れる。

委員：昔に比べコースなどが細かく変わってきた。先生のやるべきキャパが多くなり教えることが大変になる。外部からの援助も考えられる。また、生徒の選択する力は疑問がある。大学生でも力がついていない。中学校で選択させるのはつらいのでは。高校にしわ寄せがいくことになる。高校の時に何がしたいかということが必要になる。先生には授業で頑張ってもらいたい。

委員：コース制について、1年の秋に人数で割り振られるということだが希望通りいかないのは社会では当たり前。高一ではできるだけ第一希望になるよう、予備調査などで指導をしてほしい。できるだけ第一希望になるよう事前に調整をするように。2年になってから文転など変われる仕組みがあるとよい。理系が良いと思っていたが、景気で文系のほうがよくなったりする。

事務局：原則的にはコースの変更は認められない。コース変更はよくよくのことでないと。事前に覚悟を決めるように指導する。実際には文転のケースは多い。その時は理系の中でも例えば数と国語の選択や自由選択群の中からとれるようにする。

委員：親として、こどもの判断力があるか気になる。過保護すぎるといざというとき選択できない。周りが決めすぎて自分で決められない。中学生の親にとって、高校の情報は見学に行ってもよくわからない。つばさ高校の初期のイメージがある。もっと、学校の内容について宣伝したらよい。

委員：せっかくの新しいコースなので、中学校に分かるように説明をしてほしい。これからどうしていきたいのか。新しくなると今の生徒からは聞けないので。

事務局：美術・工芸分野については、親は子どもに行きたいと言われると「えっ?」となる。芸大へ行って、作家になって、作品を売って、食っていけるのか?そんな不安定なところへ行かしたくはない。ただ、芸術系に進んだもの全員が作家になるわけではない。今は芸大も就職に力を入れている。企業も芸術系から採用してくれている。与えられた任務を果たすだけでなく、発想の転換が求められる。自分の作品作りだけが生き方ではない。アクティブラーニングによって、自分で何をしないといけないか、壁にぶつかってどう乗り越えていくか。人間としていろいろな方面の力をつける。いろいろな学問に共通の、学ぶ意欲や基本的な知識を得ることで、いろいろな能力をつけ、生きるための力をつけていく。

事務局：貴重なご意見をたくさんいただきありがとうございました。今後の学校運営に活かさせていただきます。今年1年、ありがとうございました。是非、次年度もよろしく願いいたします。